

ルーヴァン・カトリック大学サンルイ・ブリュッセル校（ベルギー）

6月で全教科のテストが終わり、2セメスター目もあっという間に終了しました。今期の履修教科の中で最も難しかった授業は「Society & Environment」という講義です。この授業では、今世界で起きている環境問題、気候変動について様々な理論や仮説を用いながら、より専門的に学びます。普段なかなか聞くことのない専門的な用語が多く使われ、授業内容を理解するのに苦労しました。期末のオーラルテストは、10分間の自己プレゼンテーションと、10分間の質疑応答の計20分間のテストでした。プレゼンテーションは、授業に関連する内容から自由にテーマを設定し、自分の主張を述べます。プレゼンは事前に準備をしていたため、スムーズに行うことができましたが、次の質疑応答で答えに詰まってしまった部分があり、テストを合格できたかどうか不安なところもあります。しかし、日本の大学では滅多にない1対1型のオーラルテストはとても新鮮で、留学での経験の一つになりました。

ド・モントフォート大学（イギリス）

日本で専攻していないグラフィックデザインの授業を履修してみて、アイデア出しやデザインを練っていくプロセスや、あまり人が好まないスケッチブックをまとめる作業を楽しんで行うことができました。自分に合っている分野かもしれないと感じ、グラフィックデザイナーという職業が一つの選択肢となりました。どんな職業につけるのかわからないという状態から明確な選択肢を持てたことは希望になりましたが、一時的な成績がCであったことと、グラフィックデザインは正解がなく自分の出来栄への満足度と観客の感じ方とのギャップなどを知った上で、あくまで小さな選択肢の一つと考えています。元々、得意であった絵を描くことに関連した職業につくかどうかを決めるためのグラフィックデザイン選択でもあったので、挑戦してみてよかったと思います。

ヤゲウォー大学（ポーランド）

まず、消費者保護法のテストがありました。選択問題が15個と2つのオープンクエスチョンと言う筆記のテストです。前日も丸一日友達と勉強したのですが、私は法律を専門としていないため、基礎知識がなく、難しかったです。授業自体も聞いていて難しく、ハードルが高い授業をとってしまったようです。

また、インドの劇場の授業のテストもありました。フォームズで選択式のテストでした。授業の内容自体は難しいですが、テスト前に授業内容のまとまったPDFを先生が配布してくれたり優しい先生だったため、テストもなんとか乗り越えることができました。

ポーランドのご飯と飲み物の授業ではそれぞれ生徒一人一人がポーランド料理を作り、それについてのプレゼンをしなければいけなくて、私は6月1日にビゴスというポーランド料理を作り、プレゼンをしました。また、この授業では自分の作った料理に関して社会的、または歴史的考察などを含めた6ページほどのエッセイを書かなければいけませんでした。また、最後にテストもあり、5つの選択式問題と、3つの200words程度のショートエッセイ、500~750words程度のエッセイという内容でした。この授業が一番大変でしたが、一番楽しい授業でもあったため、勉強もはかどり、無事終わることができました。

今回のセメスターもなんとか頑張れたと思います。

マレーシア科学大学（マレーシア）

今月はUSMで規模が大きめのダンスイベントがありました。サラワクというボルネオ島（インドネシアとブルネイがあるマレー半島の東にある島です）にある州の民族（Bumi Kenyalang）の方々の文化や慣習など伝統をテーマとするダンス大会で、USMを含め8つの大学のダンスチームで競われました。首狩族やサラワクのお面など各チーム様々なテーマでダンスが繰り広げられ、どのチームも本当に素晴らしかったです。USMはサラワクの自然、特に水をテーマとしたもので、水瓶や実際の水も使われた非常に作り込まれた内容で、結果は優勝でした。結果発表や応援の盛り上がりの熱がどこの大学もすごかったです。毎回書いているような気もしますが、USMは本当にたくさんのイベントが行われており、特にschool of arts系のイベントはマレーシアの文化を知ることができ、非常に興味深く楽しいです。

エトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）

今月はジョージアに一人旅をしに行きました。ジョージアは、ルームメイトの出身国で、彼女に勧められていくことを決意しました。彼女に出逢っていなければジョージアという国自体を知らずに留学を終えていただろうと思います。初めての1週間以上の旅行、しかも友達や家族もなしでの旅行だったので、飛行機のチケットや宿を取る時点から少し緊張気味でした。いつもよりも準備を念入りに、ルームメイトに伝統料理やいくべき場所などのアドバイスをもらいながら計画を立てました。

実際に行ってみると、ジョージアは歴史的な街並みと大自然に囲まれた素敵な街でした。首都のトビリシは特に、ジブリのようなレトロな雰囲気漂う中で、ふと遠くを見れば山々に囲まれているような街でした。宿泊した先のオーナーさんがとても親切で、夜にワインを振舞ってくれたり、ご好意で市内を案内していただいたりしました。

首都から離れてコーカサス山脈の方にも足を運びました。山が、湖が、建物が全て美しく、自然と融合している風景は思わず息を呑むほどでした。何もせずにぼーっと眺めているだけで心が落ち着きます。今回はツアーに参加したのですが、いつかトレッキングなど自分の足でコーカサス山脈を登ってみたいなと思いました。

ジョージアは全体的に日本車の使用率が高いことがとても興味深かったです。特に山奥に行けば行くほど日本車しか走っていないという状況が何度も伺って面白いなと思いました。右ハンドルだったり、警告文がそのまま日本語だったりして、一瞬日本に帰った錯覚に陥りました。何人かのドライバーの方に聞いてみると、やはり日本車の性能の良さと安全性に大きな信頼を置いていて、日本車が大好きという声がたくさんありました。日本の自動車産業は確実に日本の誇る産業であり、海外からも信頼される重要な分野であることを改めて実感しました。現在、日本人は1年間ビザなしでジョージアに滞在することができるので、ノマドワーカーにおすすめの国だそうです。日本にいたら知ることのなかった国ですが、行ってよかったなと思います。

